

告示	番号	2	慢性腎疾患
	疾病名	萎縮腎（尿路奇形が原因のものを除く。）	

萎縮腎（尿路奇形が原因のものを除く。）

いしゅくじん（にょうろきけいがげんいんのものをのぞく。）

概念・定義

腎臓が正常時の半分近くに縮小し、機能不全に陥った状態を言う。多くの腎疾患の終局像である。

症状

慢性腎盂腎炎などの遷延性感染や、腎実質障害に伴い腰部の鈍痛～仙痛、頻尿、排尿痛などの膀胱症状、悪心などの消化器症状、種々の神経症状を訴え、血尿、膿尿など、原疾患と腎機能障害に伴う様々な症状を呈しうる。尿濃縮力の低下により、多量の希釈尿や、腎血管の狭窄や逸水による高血圧を呈する場合も多い。高血圧の結果として動悸、めまい、頭痛などを訴え、心筋肥大、網膜炎、脳出血、尿毒症などの合併症をおこしやすい。

治療

多くの腎疾患の終末像であり、萎縮した腎は通常回復しない。片側のみの萎縮で、対側腎機能が正常であれば予後良好であるが、腎血管狭窄、虚血に伴う腎性高血圧を合併することも多く、コントロール不良な場合は、萎縮腎摘除が必要になる場合がある。

両側の萎縮腎では透析または移植などの腎代替療法が必要となる。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/2_18_44.html